

---

患者さんへ

治療名：

自己線維芽細胞を用いた皮膚再生治療

---

## 目 次

1. はじめに.....	3
2. 自己線維芽細胞を用いた治療について .....	4
3. 治療の方法と治療期間について .....	4
4. 治療が中止される場合について .....	6
5. 予測される利益(効果)と不利益(副作用)について .....	6
6. 治療を受けられない場合の他の治療について .....	7
7. 健康被害について .....	8
8. 情報の開示と個人情報の取り扱いについて .....	8
9. 患者さんの費用負担について .....	9
10. 担当医師及び相談窓口 .....	10

---

## 1. はじめに

この冊子は、自己線維芽細胞を用いた皮膚再生治療の説明文書と同意文書です。医師の説明に加えてこの説明文書をよくお読みになり、治療を受けるかどうかご自身の意思でご検討ください。

この治療技術は、聖マリアンナ医科大学において『再生医療等の安全性の確保等に関する法律』を遵守し開発された製造方法、品質管理方法と同等の技術です。さらに、高度に衛生環境が維持された細胞培養加工施設で自己線維芽細胞の分離、培養が行われ、必要に応じて凍結保管を委託することにより、安全性が高く、高品質な自己線維芽細胞を使用した治療を提供しています。

なお、治療を受けるかどうかは患者さんの自由な意思で決めていただきたいと思います。誰からも強制されることはありませんし、誰に対しても気をつかう必要はありません。また、説明を受けたその場で決める必要はありません。この説明文書を持ち帰っていただき、ご家族の方などと相談してから決めていただくこともできます。

さらに、この治療を受けることに同意した後でも、いつでも治療をやめる事ができます。治療を受けなくても、同意された後で取りやめられた場合でも、その後の治療を受ける上で患者さんが不利な扱いを受ける事は決してありません。

また、患者さんから採取した組織は無償でご提供いただくことになり、本治療に必要な検査や治療以外の目的で使用されることはありません。治療の内容をよくご理解いただいて、この治療を受けてもよいと思われた場合は、同意書にご署名をお願いいたします。

---

## 2. 自己線維芽細胞を用いた治療について

線維芽細胞とは患者さんのお肌に存在する細胞の一種であり、お肌のハリやツヤを保つために必要不可欠な細胞です。お肌は年齢を重ねると乾燥や紫外線などの刺激により、ハリ・ツヤが低下します。いわゆる老化現象です。

線維芽細胞は、コラーゲン、ヒアルロン酸、エラスチンなど、お肌のハリ・ツヤをもたらす成分を生み出すことで、よく知られています。世間ではコラーゲンやヒアルロン酸をお肌に直接注入する美容法が行われており、効果が得られています。しかし、身体は常に代謝しているため、投与されたコラーゲンやヒアルロン酸は分解されるので、一時的にハリ・ツヤが戻ったとしても、もとに戻ることになります。

今回提案する「自己線維芽細胞を用いた肌再生療法」は患者さんのお肌の一部を採取して、クリーンな環境のもと、細胞を増やして、必要なタイミングで患者さん自身のお肌に戻す(注射する)治療法です。採取されるお肌は10mm×5mm程度で、このお肌を原料に線維芽細胞を培養します。注入される線維芽細胞はご自分の細胞ですので、とても安全です。一度の採取で長期間にわたり、冷凍保存ができます。

年齢を重ね、ハリ・ツヤが気になり始めた時に再び線維芽細胞をお肌に戻すことができます。

## 3. 治療の方法と治療期間について

### 《治療方法の概要と治療期間》

線維芽細胞を培養して、増やすために、元となるお肌を耳の後ろなどから10mm×5mm程度、採取します。採取には局所麻酔を使用するため、痛みを伴うことはありませんが、採取した部位が元の状態に回復するには、数日かかります。

---

細胞の培養が完了するまで、約 2 ヶ月間必要となりますので、その間、お待ちいただくこととなります。細胞の培養が完了後、当クリニックでご自身の線維芽細胞を多く含んだ注射液をお肌のハリ・ツヤが気になる部分に注射します。

注射後は異常等がないことを確認するために 3 ヶ月間は定期的に通院していただきます。(概ね月 1 回)

また、一般的に知られているコラーゲンやヒアルロン酸のお肌治療と異なり、即効的な効果は期待されません。線維芽細胞治療に即効性を期待されている患者さんは他の治療法をお勧めします。

注射に用いなかった線維芽細胞は細胞を培養した施設で安全に冷凍保管され、将来、必要な時に再び注射液としてお肌に注射することができます。あらためて、耳の後ろからお肌を採取することはありません。

### 《治療を受けられない場合(除外基準)》

患者さんのお肌を切開し、お肌の一部分を採取します。採取する場所(耳の裏)に障害があった場合(炎症があった場合など)はお肌を採取できないため治療を受けることができません。

もしも、病気を治療するためにお薬を服用している場合は、そのお薬の作用で本来の効果が得られない可能性があり、場合によっては悪化する可能性もあります。服用しているお薬の種類によっては治療を受けることができない場合があります。線維芽細胞治療を受ける前に主治医と相談してください。

また、この治療法は「バイ菌」を殺すような消毒薬のような働きはありませんので、治療する目的の部位が感染していたりすると治療を受けることができません。

---

## 4. 治療が中止される場合について

以下のような場合この治療を中止することがあります。場合によっては、患者さんが治療を続けたいと思われても、治療を中止することがありますので、ご了承ください。

- 1) 患者さんが治療をやめたいとおっしゃった場合。
- 2) 検査などの結果、患者さんの症状が治療に合わないことがわかった場合。
- 3) 患者さんに副作用が現れ、治療を続けることが好ましくないと思われ、担当医師が判断した場合。
- 4) 標準的な細胞培養をおこなった結果、個人差等の理由により治療に必要な線維芽細胞が得られなかった場合。

その他にも担当医師の判断で必要と考えられた場合には、治療を中止することがあります。中止時には安全性の確認のために検査を行います。また副作用により治療を中止した場合も、その副作用がなくなるまで検査や質問をさせていただくことがありますので、ご協力をお願いいたします。

## 5. 予測される利益(効果)と不利益(副作用)について

### 《期待される利益（効果）》

この治療法は、自己線維芽細胞治療という再生医療技術を応用することで、ヒアルロン酸やコラーゲンの産生促進により、皮膚を若返らせ、年単位の持続効果が期待されます。

### 《予測される不利益（副作用）》

患者さんご自身のお肌から線維芽細胞を分離、培養するためにお肌を採取する必要があります。このためお肌を切開する必要がありますが、麻酔を使用する

---

ため痛みはありません。しかし、切開した部分が完全に元に戻るまでには数日の期間が必要となります。お肌を切開していますので、稀に化膿するなどの危険が考えられますが、その確率は通常の擦り傷、切り傷が化膿してしまうリスクと同程度です。

線維芽細胞注射後は、注入部位が赤くなったり、腫れたり、痒くなったりと一時的（7日程度）症状がでることがあります。また、ごくまれに、壊死や変色、着色等の外見的に好ましくない有害事象が起こることがあります。

線維芽細胞は、患者さんのお肌から作っていますので、自己細胞です。他人の細胞を移植するのとは異なりご自身の細胞ですので肝炎やエイズなどを引き起こすウイルスの感染の心配は全くありません。ただし、治療後3ヶ月間は概ね月に一度程度の来院により、異常がないことを確認する必要があります。

動物由来の原材料（ウシ胎児血清）を用いて製造していますので、この原材料に対して、稀に過敏症を引き起こすことがあります。

お肌を採取後または治療後にいつもと違う症状が現れたら、必ず担当医師または当院相談窓口にて、来院または電話でご相談ください（連絡先は文末に記載しています）。症状を適切に判断して、副作用を軽減できるよう最善の処置を行います。

## 6. 治療を受けられない場合の他の治療について

お肌に対する従来型の治療法としては代表的なものとして以下が挙げられます。

### ① コラーゲンやヒアルロン酸注入

これらは補充療法ですので、しわなどのくぼみの部分を下から広げる方法です。一定の期間だけの改善を希望される方には適していますが、時間の経過で吸収されてしまいますので、継続的な治療が必要です。

---

## ② レーザー治療

レーザー照射の刺激によって、肌細胞を活性化させ、肌を若返らせることを目的とした治療法です。デメリットとしては個人差が大きいことです。レーザー治療は細胞が増えるわけではありませんが、数か月～1年間効果が持続します。

## 7. 健康被害について

本治療は、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」に基づき製造及び品質管理しています。注射する成分は、患者さんご自身の線維芽細胞を分離、培養して原料としています。線維芽細胞以外に使用する薬剤についても医薬品を中心とした安全性の高い材料を使用して培養します。培養作業は、厚生労働省に許可を得た細胞加工施設にて無菌的に実施します。細胞加工施設では、患者さんから採取したお肌から線維芽細胞を分離、培養する操作をおこないますが、使用する器具類の大部分は一回使い捨ての滅菌製品ですから安全です。

しかしながら、本治療によって万が一、健康被害が生じた場合、通常の診療と同様に適切に治療を行います。

## 8. 情報の開示と個人情報の取り扱いについて

この治療を受けた場合のカルテなどが治療中あるいは治療終了後に調査されることがあります。患者さんの人権が守られながら、きちんとこの治療が行われているかを確認するために、細胞加工業者があなたのカルテなどの医療記録を見ることがありますが、細胞加工業者には守秘義務が課せられています。

患者さん自身、代諾者も閲覧する権利が守られています。

治療で得られた成績は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者さ

んの名前などの個人的情報は一切わからないようにしますので、プライバシーは守られます。

この治療で得られた発見が、その後の特許に繋がる可能性もありますが、この権利は発明者に帰属します。

本治療に関わる個人情報は、クリニック管理者によって法に基づいて厳正に管理されています。

## 9. 患者さんの費用負担について

本治療は保険適用されないため、全額自費診療となります。

診療費用は患者さんの症状、施術回数などにより患者さん毎に異なります。

施術する前に詳細な施術料金を提示いたしますので、ご納得いただいた上、施術いただきますようお願い申し上げます。一般的な治療費用を下記に示します。

初期	診察費	¥5,000
	検査費	¥10,000
	組織採取から細胞保管 (細胞採取、細胞培養、細胞保管処置費用)	¥980,000
	1年間の保管料	上記込み

処置 (計25ml)	1回目 注入細胞の調整 (5ml)	¥980,000
	2回目 注入細胞の調整 (5ml)	¥980,000
	3回目 注入細胞の調整 (5ml)	¥980,000
	4回目 注入細胞の調整 (5ml)	¥980,000
	5回目 注入細胞の調整 (5ml)	¥980,000

合計	検査、採取から1年で25mlの注入	¥5,895,000
----	-------------------	------------

